

# 少尉のドスケベ生存ルート



作者に無断でコピー、  
再配布、改変などはご遠慮ください

「いいぞ少尉 なんだフェラチオが巧いじゃないか  
嫌がっていたようだが実はちんぽが好きなのかね？」

(くそっ なぜ私がこんなことを……  
こんなことをするために軍に  
入ったわけではないというのに……)

「ふうう 精子が上がって来たぞ  
顔にかけるからね そのスケベ面で  
受け止めなさい」





「ああっ!?!? んああっ」

「うん、うん、うん」



「ふううう 気持ちよく射精せたよ  
どうだね 私の精子は  
中々の量と濃さだろう？  
ふう とても似合っているよ」

「あ、ありがとうございます」  
（ふう…量もすごい匂いも…  
なんて濃いい雄臭なんだ…）

どろお

ふう

ふう

ふう

「服をはだけてみなさい  
胸を出して…そう、それでいい  
大きくていやらしい胸だ  
少尉を見つけた時から目を付けていたんだ  
あのままアークエンジェルに配属させていたんじゃ  
楽しむ機会が無かったのよね」

とゆんあ♡



「重くて揉みがいのあるおっぱいだねえ  
少尉もこんな立派なものをぶら下げると  
大変だろう  
私がほぐしてあげるからね」

「んっ んうんっ」  
「(乳首までっ♡ そっはだめっ♡)」  
「乳首が感じるのかな？ちゃんと弄ってあげるからね  
遠慮せずに声を出しなさい」

「あっ♡ ああん♡ はあっ♡」

んっ♡

むにゅ

むにゅ

むにゅ

♡  
♡  
♡  
♡  
♡  
♡



「ではグズグズ寝てしまおう」

綺麗に横に流れて実にいやらしいお  
さつそく味わおうかな」

(綺麗…か  
そんなこと今まで言われたことも  
無かったな)



たゆっ

たゆっ

たゆっ-っ

たゆっ

「ううん コリコリとして  
良い乳首だよ  
グミのようだ」

「はうんっ♡んんっ♡」

「良い感度だ  
いつも自分で触ってるのかね？  
ふふ 可愛いじゃないか」

「あっ♡あふっ♡んっ♡  
(なんでも♡こんなに感じるんだっ♡  
舌が乳首を這うだけで頭の先まで  
ゾクゾクするっ♡)」

ピクッ

ピクッ

♡ん♡

♡ん♡

♡ん♡





「ほら 恥ずかしがらずに脚を開きなさい  
これはこれは「綺麗なまんこ」じゃないか  
あまり使っていないのかね？」

「は...はい...経験は少ししかありません...」  
「そうかね じゃあじっくりとほぐして  
あげよう」

「んん...」

「ん」

いおかあ

「はあっ♡あっ♡あんっ♡」

「嫌そうな顔をしている割にはまんこが指を締め付けるじやないかどうやらこっちは期待してたようだね」

「そっ そんなことはっ♡はうんっ♡それっ♡だめっ♡」

「クリトリスが好きかな？ほれほれ」

「ほおおおっ♡♡弾かないでっ♡くださっ♡」

「裏側から同時に刺激してあげよう気持ちいいかね」

「んおおおっ♡♡おおおおっ♡だめっ♡それだめっ♡

「おおっ♡♡イグっ♡♡イグっ♡♡おおっ♡♡イグっ♡♡イグっ♡♡」

んよよよ♡♡

やめ♡♡

んよ♡♡

よよよ♡♡

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

くちゅ♡♡くちゅ♡♡くちゅ♡♡くちゅ♡♡くちゅ♡♡くちゅ♡♡くちゅ♡♡くちゅ♡♡くちゅ♡♡くちゅ♡♡





「ほおおお〜♡ おおお〜♡」

「どうかね お堅い少尉もこれで  
ほぐれたんじゃないかな  
まんこもずいぶん喜んでたぞ」

「も……♡ もうやめへ……♡」

「アへるのもいいが私のちんぽで  
まんこも楽しませてもらうよ」

「おお〜♡」

「おお〜♡」

「おお〜♡」

「おお〜♡」

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

ビクッ



「あ…あの…  
避妊具は…」

「せつかくの少尉のまんこなんだ  
そんな無粋なものはいらないだろう」

「そんな…待ってください…  
あはああああ♡」

「おおっ イイまんこじゃないか  
ちんぽを押し返すように締め付けてくるっ」

「んっ♡ あんっ♡ あっ♡ はああ♡」

「少尉も気持ちいいだろう？」

「おう まんこで返事を  
するんじゃない♡」

「な…膣内にはっ♡  
射精しないでくださいっ♡  
んああああっ♡」

ぬちっ

ぬちっ  
ぬちっ  
ぬちっ

あまん♡

あっ♡



「ふうー ふうー  
そろそろ射精そうだっ  
膣内で受け止めたまえっ」

「んああんっ♡だめっ♡  
膣内はっ♡妊娠しちゃうっ♡  
ああっ♡  
お願いですっ 膣内にはっ♡  
射精さないでっ♡」

「ぐうぐうっ 射精るぞおっ  
射精るぞおっ！」

「あああっ♡いやあっ♡  
膣内射精はだめええっ♡  
妊娠いやああっ♡」

アッ  
アッ

アッ

アッ  
アッ

アッ  
アッ

アッ  
アッ





「うんうんうん」

「おほおおおっ♡」

「ううっ 孕め少尉っ！  
奥にたっぷり射精すからな！」

「んおおおっ♡射精てるっ♡  
腔内に射精され  
ちやってるうっ♡  
いやあああっ♡」

どぴゅっ

どぴゅっ

んおおおっ♡

おっほ♡

ビクッ

ビクッ

ビクッ



あ♡♡

あ♡♡

あ♡♡

よよあ♡♡

よまん♡♡

ほあ♡♡

あ♡♡

「ふふふ 膣内射精してイったまんこが  
イイ具合になっているじゃないか」

「おっ♡おおおっ♡イっだ♡もうイっだがらあっ♡  
おまんこ突かないれっ♡」

「嫌かね？ それなら押しつけてもいいんだよ  
ほれほれっ」

「んおおおおおっ♡ぞっだめっ♡  
まだイっぢやうっ♡おまんこイっぢやうがらっ♡」

「イキなさい 膣内にたっぷり射精してあげるからね」

「んやあああっ♡ながはっ♡らめっ♡おおおんっ♡」

じゅ

じゅ

じゅ

じゅ

じゅ

じゅ

じゅ

じゅ

じゅ





おおおおっ♡

おおっ♡

おおっ♡

「おおっ♡おおおっ♡んおっ♡」

「くっくっくっすい締め付けた！  
そんなに膣内射精が嬉しいかねっ」

「おほおっ♡ぐりぐりしないれっ♡  
イグのどまらにやいっ♡」

びゅっ

びゅるるる

びゅっ

びゅっ

びゅっ

びゅっ



「ほおおお…♡んおおお…♡」

「ぶつ、良かったよバジール少尉  
君を「つちに寄こした」のは正解だったよ  
たつぷりと可愛がってあげるから  
また来なさい」

「りよ…うかいで…あります…」



後日

「失礼いたします」

「待ってたよバジール少尉  
用意した制服も似合っているよ  
着心地はどうかかな？」

「はっ 締め付けもなく  
とても楽であります」



「そうだろう  
さあこちらへ来たまえ  
さっそく始めよう」

「…了解です」

「そんなに硬くならなくて構わんよ  
楽しんでなさい」

「このだらしなく大きな胸…  
とても揉みがいがあるよ」

「(…上官命令とは言え こんなこと…)」

「私のちんぽも触りなさい  
君をよがらせたちんぽだぞ  
丁寧にな」

「こんなもの…  
こんな…硬く反り返って…熱くて…」

むちゅっ

「玉も触るなんて少尉も期待していたのかな？」

「あっ ちが これは…」

「遠慮などしなくていい ほら 舌を出して」

「んむ んん」

なで  
なで

ずりずり

ぐ  
ぐ  
ぐ



「まずは口でももらおうかな  
少尉とのセックスを考えたら勃起が  
収まらなくてね  
自分で言うのもなんだが立派なものだろう」

「は、はい、了解しました」

(またこのちんぽで……)

変なことを考えるな！無心でやればいい

……でも……こんな硬いもので……

またおまんこの奥までほじくり返されてしまうのか？

れんぽん♡

「少尉、見とれるのもいいが始めてもらえるかな？  
私も焦らされるのは嫌いじゃないがね」

「し、失礼しました れろっ」

「おふう いきなり先っぽなんて待ちきれなかったかな？

いいぞ そう 竿も舐めて 上手いぞ」

(やっぱりすごく熱い……これが私のおまんこで暴れまわって……  
思い出すだけで疼いてしまう)

「ちゅぷ ちゅぷ ちゅる  
いかがでしょぅか？」

「いぞ少尉 もっと根元まで啜えて……」

「じゅるじゅる……」

「おお そぅだ」

「ちゅぽっ ちゅぽっ ちゅぽっ」

「ふぅぅ 気持ちいいぞ  
この前は嫌々だったがつ  
すっかりちんぽの味を  
覚えたじゃないか」

「ふあい……」

（あんなに嫌悪感があったのに……  
ちんぽにしゃぶりつくのが  
こんなに興奮するなんて……）

「うぅっ もっと吸い付いてっ」

「じゅるじゅる ぢゅるじゅる……」



ちゅぽっ

ちゅぽっ

ちゅぽっ

ちゅぽっ

ちゅぽっ

ちゅぽっ

もごもご

「おお おおっ そんなに激しく！  
いいぞっ ちんぽを食われそうな勢いだ！」

「じゅぽっ♡ じゅぽっ♡」  
(亀頭が膨らんできている 射精されてしまう♡  
濃い精子を口に射精されてしまう♡)

「ううっ 出るぞーそのまま吸い付いてるんだ！」







「飲んだかね？見せてみなさい」

「んはあ♡」

「しっかり飲んだようだね  
美味かっただろう？  
また飲ませてあげよう」

「ありがとうございます♡」

「準備運動は終わりだ  
君のおまんこも楽しませてあげよう」





「さあ君のまんこに入りたくて  
堪らないちんぽだ  
好きに動きなさい」

「はい失礼します  
んっ♡おほおん♡」

「心づり少尉のまんこは  
名器だねえ挿入れただけでも  
気持ちいいよ」

「あ♡ありがと♡ございます♡  
んっ♡んっ♡あ♡はあ♡」

「おおいいぞ  
君のお堅かったまんこが  
ちんぽをばっくりと啜えこんでるのが  
良く見えるよ  
気持ちいいかい？」

「は、はい♡とてまっ♡気持ちいいです♡」

ぬ  
ぶ  
ん  
ん  
♡  
ぶ  
ん  
ん

た  
ぼ  
ん  
♡  
た  
ぼ  
ん  
♡  
た  
ぼ  
ん  
♡  
た  
ぼ  
ん  
♡









「次は私が君のまんこを  
喜ばせてあげよう」

「はい、お願い致します……」  
(まだこのちんぽでぐちゃぐちゃに  
されてしまっ……♡  
耐えるんだっ)

「くっっ 締め付けの良いまんこを  
かき分けて挿入れていくこの感覚は  
何度味わってもイイものだよ」  
「んっっっっ♡」

「この腫肉がちんぽに絡みつくの  
またイイねえ  
ゆっくり動かすと丁度いい刺激だよ」

「おっほおっ♡んんんっ♡ やっ♡やめへっ♡  
そっ♡♡やめてくださいっ♡んんっ♡♡♡♡♡

「ここが好きなのかね いいぞもっつと  
挟ってあげよう」

「んおおおおっ♡だめっ♡だめえっ♡♡」



「おおおんっ♡ほおおっ♡  
そんなにやっ♡激しく突かないれっ♡  
だめえっ♡おっ♡おっ♡おっ♡  
感じすぎちゃっ♡おまん♡だめえっ♡」

「うっ 締め付けがもつと良くなったぞ  
このまま続けるぞ イってしまえ！」

「おっ♡おおんっ♡イクっ♡  
イクっ♡おまん♡イクっ♡  
おちんぽでっ♡上官の長ちんぽで  
おまん♡イクっ♡おまん♡イクっ♡」  
「ぐうっ 射精すからな！イけっ！  
アクメまんこしろ！」

「あっ♡  
あっ♡  
あっ♡

「あっ♡

「あっ♡

「あっ♡

「あっ♡











「ほおおおお♡おお♡♡♡」

「ふっふっふ」

出した出した 少尉のまんこは  
気持ちいいなあ 今ままで  
一番かもしれないな

「あ…ありがとうございます♡」

「今日はこれくらいにしておこう  
まだ呼んだら来なさい いいね」

「わかりましたあ♡♡」

ほ♡♡♡

ほ♡♡♡

お♡♡♡

お♡♡♡

ほ♡♡♡

ほ♡♡♡

ほ♡♡♡

ほ♡♡♡

ほ♡♡♡

ほ♡♡♡



「ほおおお♥おお〜♥」

「ふ〜〜〜」

出した出した 少尉のまんこは  
気持ちいいなあ 今までで  
一番かもしれないな

「あ…ありがとうございます…♥」

「今日はこれくらいにしておこう  
まだ呼んだら来なさい いいね」

「わかりましたあ…♥」

ほ〜♥

ほ〜♥

ほ〜♥

ほ〜♥

ほ〜♥

ほ〜♥

ほ〜♥

お〜♥

お〜♥

ほお〜♥

「どうしたね？これくらいでへばるなんて  
軍人としてはだらしがないぞ？」

「も…申し訳…ありません…」

「ふふふ、まあいい  
次も楽しみにしていたまえ  
私は先に戻るがゆっくり休んで  
いきなさい」

「…は…い…」



「うんうん パイズリもなかなか良いぞ  
少尉の爆乳はぜひとも味わってみたかったんだ」

「ありがとうございます」

「この乳圧はたまらんよ  
もっと激しくできるかな？」

「わかりました」  
(胸で挟むなど…なんてあさましい行為なんだ)

にゅむ

にゅむ

にゅむ

にゅむ

にゅむ

にゅむ

にゅむ



「いかがでしょうか？」

「いいぞっ そのままだ そのままっ」

(中で跳ねまわる様にビクビクしている  
射精が近いな)

「くっくっくっ 出すぞお！そのまま  
ずりあげるんだ！」





「おっ、うっ、うっ」

「んっ♥熱い♥」

「い、いいぞお、もっときゅっつと挟むんだ  
絞りだすようにな、おおっ」

♡♡

ひゅっ、  
あ、あ、あ、  
のっ

ふっ、  
あ、あ、あ、  
のっ

ふっ

ふっ

ふっ



「良いパイズリだったよ  
これから頼むとしよう  
さあ次は少尉もちんぽで楽しんでくれ  
好きだろう？」

「いいえ 私は…」

「ほら、遠慮せずに早くしたまえ」

（くっ）



「良い恰好だよ少尉  
ちんぽを誘う下品さが  
とても似合っているよ」

「こんな屈辱的な……  
こんなことのために軍人になったわけでは  
おちんぽ……またあんなに硬く勃つて……」

「さあ 君の好きなちんぽだ  
今日も楽しもうじゃないか」

「はい 私のおまんこで  
お楽しみください……」  
「……おちんぽ♥おちんぽ♥」

たぶっ

たぶっ







「んっ♡おっ♡おほっ♡おっ♡  
(すっ♡す♡いっ♡いっ♡おちんぽ  
気持ちいいっ♡腰がっ♡動いちやうっ♡)」

「おお、いいぞお、下品な腰振りだ  
その調子でちんぽを搾り取るんだ  
気持ちいいだろっ?」

「はい♡おちんぽイイですっ♡  
気持ちいいトコにあたりますっ♡  
んおおっ♡」

「そのまま続けるんだっ  
精子を出してやるからなっ  
子宮で受け止めるんだぞっ」

「おほっ♡射精してっ♡射精してっ♡  
おまんこに種付け射精っ♡おっ♡おっ♡  
おまんこイクっ♡イキますっ♡」



だっ♡  
おっ♡

だっ♡  
おっ♡

おっ♡  
おっ♡  
おっ♡

おっ♡  
おっ♡  
おっ♡  
おっ♡

おっ♡  
おっ♡  
おっ♡  
おっ♡

おっ♡  
おっ♡  
おっ♡

おっ♡  
おっ♡

「んっ♡おっ♡おほっ♡おっ♡  
(すっ♡す♡いっ♡いっ♡おちんぽ  
気持ちいいっ♡腰がっ♡動いちやうっ♡)」

「おお、いいぞお、下品な腰振りだ  
その調子でちんぽを搾り取るんだ  
気持ちいいだろっ?」

「はい♡おちんぽイイですっ♡  
気持ちいいトコにあたりますっ♡  
んおおっ♡」

「そのまま続けるんだっ  
精子を出してやるからなっ  
子宮で受け止めるんだぞっ」

「おほっ♡射精してっ♡射精してっ♡  
おまんこに種付け射精っ♡おっ♡おっ♡  
おまんこイクっ♡イキますっ♡」



だっ♡  
おっ♡

だっ♡  
おっ♡

おっ♡  
おっ♡  
おっ♡

おっ♡  
おっ♡  
おっ♡

おっ♡  
おっ♡  
おっ♡

おっ♡  
おっ♡  
おっ♡

おっ♡  
おっ♡  
おっ♡







「ふうー♡ふうん♡」

「まだ離そうとしないな  
このスケベまんこは  
まだ可愛がつてあげるから  
一旦離さない」

「はあい♡了解であります♡」

まよ〜♡

よあ♡

まよ♡

ビクッ  
ビクッ

ビクッ

ガッ  
ガッ  
ガッ

ガッ

ビクッ

びゅっ♡

びゅっ♡

びゅっ♡

ビクッ







「おっ♡おっ♡おっ♡おっ♡」

「ほおおおんっ♡おおおおっ♡」

おっ♡  
おっ♡  
おっ♡

どひゅっ

どひゅっ

どひゅっ

どひゅっ

どひゅっ  
どひゅっ  
どひゅっ



数か月後

「すっかり立派なボテ腹になったじゃないか  
綺麗だぞバジール少尉」

「はっ ありがとうございます」

「どうだね これからボテ腹セックスを  
するが 興奮しているかな？」

「はい おまんこは十分濡れております  
おちんぼを挿入する準備はできております」

「君がここまで淫乱になってくれて嬉しいよ  
さっそく始めよう」

数ヶ月後

とぶとぶと

ぽてっ♡



「おまんこが疼いて仕方ないのです  
おちんぼの挿入をお願いいたします♥」

「自分からケツを突き出しておねだりとは  
少尉も素直になったものだな」

「はい、上官殿が愛してくれたおかげです♥」

「それじゃあボテ腹まんこを楽しませてもらおうか」

ずり  
ずり♥

たぶ  
たぶ

たぶ

はっ♥

はっ♥

はっ♥



「はあああん♡」

「良い締めだぞ少尉  
妊娠してるとは思えないまんこだ」

「あ♡♡あ♡♡あ♡♡あ♡♡あ♡♡  
おまんこが♡感じやすくなってる♡  
おちんぼ気持ちいい♡♡おまんこ♡」

「ふっ♡ふっ♡/腔内に欲しいかね？  
腔内射精がいいかな？」

「ああん♡♡腔内♡腔内に射精して  
ください♡♡  
満室のおまんこに射精してえ♡♡」

おまんこ♡♡

あ♡♡

ふっ♡♡

ふっ♡♡





「んおおおおおおおっ♡」

「ぐうぐうっ いいぞっ ボテ腹まんこを  
締めるんだっ 胎の子にかかるくらい  
締め上げるっ」

「おっ♡ おっ♡ おおっ♡  
イっで♡ おまんこ♡ イグうっ♡」

びゅるっ  
びゅるっ

おぼおぼっ♡

まぼおぼおぼ♡

おー♡

びゅるっ

びゅるっ

びゅるっ  
びゅるっ



「んおおおおおおおっ♡」

「ぐうぐうっ いいぞっ ボテ腹まんこを  
締めるんだっ 胎の子にかかるくらい  
締め上げるっ」

「おっ♡ おっ♡ おおっ♡  
イっで♡ おまんこ♡ イグうっ♡」

びゅるっ  
びゅるっ

おぼおぼっ♡

まぼおぼおぼ♡

おー♡

びゅるっ

びゅるっ

びゅるっ  
びゅるっ



「よおし 最後だ  
ぶっかけるからそこに座りなさい」

「はい♡これでよろしいですか♡」

「いいぞ 舌を出したいやらしい  
チン媚び顔射待ちの顔を見たら  
精子が昇ってくるよ」

「す♡ごおい♡あんなに射精したのに  
まだまだ硬いまま♡  
あ♡先っぽがビクビクしてきた♡  
射精すのですね♡いっぱいかけてください♡」

「くっっ 射精すぞっ こっちを見るんだっ」

はー♡

はー♡

くっ  
くっ  
くっ





「おふっっっ」

「あはあ♥熱い♥」

「そのスケベ顔にたっぷりかけろぞっ」

びゅっ

びゅっ

びゅっ

んあ♡

あ♡

「ふうっ」

気持ちよく射精せたよ  
少尉も精子まみれで似合っているよ」

「ああん♡こんなにいっぱい♡  
素敵であります♡」

「これからも少尉のまんこも  
可愛がってあげるからね  
期待しておきなさい」

「はい♡ありがとうございます♡」

べっぴん♡

は♡

は♡

は♡

END







































































































































